

(財) 茨本市文化振興財団第111回公演



林家仁平



桂

春團治



笑福亭銀瓶



桂  
かい枝



林  
家染雀



桂  
雀々

# 上方落語五流派競演会 Vol.4

平成22年 **6月19日【土】** 14:00開演 (13:30開場)

茨木市市民総合センター・クリエイティブセンター・センターホール

【全席指定】 1階席3,000円 / 2階席2,500円

◎65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者は500円引き

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き

\*各会員割引の取り扱いには文化振興財団のみです \*就学前のお子様の入場はご遠慮ください

電話予約開始 **4月24日(土) 9:00** | 窓口販売開始 **4月25日(日) 9:00**

◆チケットのお申込み・お問い合わせ

(財) 茨木市文化振興財団・事業係 072-625-3055 (ユーアイホール1階 9:00~17:00)

\*発売初日は電話予約のみです。チケット引取り・窓口販売は翌日から下記のチケットカウンターで  
ユーアイホール 9:00~20:00 (土・日・祝は17:00まで) / クリエイトセンター 9:00~17:00

◆その他の販売所 [4月24日店頭販売有り]

ローソンチケット 0570-000-777・Lコード予約 0570-084-005 (Lコード 56401)

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 402-178)

◆主催：(財) 茨木市文化振興財団 ◆後援：茨木商工会議所/茨木市観光協会 ◆制作：三栄企画 ◆構成：相羽秋夫

夢	千早	千早	代	蛸	野ざら	〔番組〕
	物	振		芝	ら	〔上方落語界の現状〕
		中				* 相羽
八	箱	人	書	居	し	秋
桂	林家		桂	林	桂	夫
	雀			家	か	
	々			春	い	
				團	枝	
				治	雀	
					々	

お囃子／なにわの会



# 絢爛たる五流派の競演



相羽秋夫

演芸評論家  
大阪芸術大学教授

今年もまた「上方落語五流派競演会」が巡ってきた。すっかり当財団の名物企画となったもので、茨木市だけの「風物詩」と言ってもいい。

毎年、このイベントを心待ちにしている人が多いことを知って、提供する側としても、これ以上嬉しいことはないと考えている。

今年で四回目を迎えるが、前二回は満席になるほど評価が高かった。殊に今年は、さらに充実したメンバーで、それだけに、一層の期待が集まる。

では、さっそくその顔ぶれを紹介しよう。

「文枝一門」を代表しては、桂かい枝が登場する。かい枝と言えば、「英語落語」で有名で、アメリカを半年かけて横断しながら落語会を開いた。

その後も毎年渡米して同様の会を開いている。

しかし、本格の古典落語の手腕もたいしたもの、文化庁芸術祭賞新人賞をはじめとする数々の賞に輝き、間違いなく将来の上方落語界を背負って立つ存在である。

古典を独自の構成力で現代によみがえらせる腕前をじっくり楽しんで欲しい。

「染丸一門」からは林家染雀が出演する。

大阪大学文学部の卒業で、学生時代から古典芸能を研究対象にしており、その延長線上に落語があった。

それだけに落語への情熱が高く、音曲囃や芝居囃を得意にしている。

日本髪のかつらをかぶり、白塗りの化粧をして芸者姿になる。三味線を演奏しながら、桂あやめという女流落語家とのユニット「姉様キングス」の織り成す芸は、もうかくし芸ではなく、立派な表芸である。

今回の演目は、これら二つの芸の融合から選ばれたものである。

「春団治一門」からは、ずばり御大三代目桂春団治が、締めつけてくれる。

桂米朝と並んで、上方落語界の頂点に立つ存在で、若い人たちの精神的支柱でもある。

精緻な芸風は、完璧さをたえず追及してきた。本日の「代書」も、そうした計算され尽くした上に花咲いた作品である。

平成十八年に囃家生活六十周年を迎え記念落語会を開いたと思つたら、昨年は、春団治襲名五十周年のパーティーを開催するなどたえず話題性に事欠かない。

落語一筋に歩んできた芸はこういうものだという高座に浸っていたきたい。

休憩をはさんで、「松鶴一門」からは、笑福亭銀瓶が出る。銀瓶は、鶴瓶の七番弟子であるが、入門当初から活躍が目立っていた。芝居を筆頭として多方面に進出していたが、ことに近年は、「韓国語落語」を開発した。

銀瓶は在日三世で、祖父の母国に落語の魅力を伝えたいものと、韓国語を一から勉強してたどりついた。

すでに韓国国内での公演にも成功しており、この分野での行動がますます増えていくことになろう。

マスコミでの露出も多い。

トリは、「米朝一門」の桂雀々である。

米朝の弟子の故二代目枝雀の門下であり、三十年を越える芸歴を誇る。

熱演型であり、「夢八」も彼の手にかかると大爆笑の囃になる。

この一門を代表する人気落語家であり、各所で大活躍をしている。

昨年は、数奇な生い立ちをまとめた手記を出版して話題を呼んだ。

雀々は中学生時代には、テレビの素人番組の定連であり、出演者の穴があくと、すぐ雀々が呼ばれる程の腕前であった。その筋入りの芸を味わってもらいたい。

今回は、この五人の上に、さらにビッグゲストが応援にかけつける。

テレビ番組「笑点」の大喜利メンバーである林家たい平である。

少しくプロフィールをご案内すると、一九六四年、埼玉県生まれ。

武蔵野美術大学を卒業して、八八年に林家こん平に入門して以来、たい平の名前で通してきた。

こん平が病気で倒れ、その交替として、こん平門下のたくさん兄弟子をとび越えて「笑点」に抜擢された。

それだけ、早くから注目されていた逸材である。

関西での出演は非常に珍しいので、是非生の高座をこの機会に見られることをお勧めする。

と、充実そのものの四回目の五流派の激突を、今から胸をわくわくさせながら待っていたい。

〈敬称略〉

## ◆チケットのお申込み・お問合せ

(財) 茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00)

\* 財団の発売初日は電話予約のみです。お席はお選びいただけません。

\* 予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。

\* 予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送料400円〉を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。  
(振替口座) 00970-7-190576 / 加入者名: 財団法人茨木市文化振興財団

◆クリエイトセンター(茨木市市民総合センター) 茨木市駅前四丁目6番16号 / 072-624-1726

